



木村荘八《歌妓支度》(部分) 1930年 第8回春陽会展 当館蔵



山本暎《秋の白馬岳》1932年頃 第12回春陽会展 当館蔵



森田恒友《緑野》(部分) 1920年代 当館蔵



入江毅《風車売》1962年 第39回春陽会展 当館蔵



山崎省三《第五回春陽会覧会ポスター》1927年(部分) 当館蔵



今関啓司《牛八》(部分) 1943年頃 当館蔵



小杉放菴《保呂保呂》(部分) 1936年 第14回春陽会展 当館寄託

# 小杉放菴と 春陽會の画家たち

2023年 7月8日(土)~9月3日(日)

開館時間/午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日/毎週月曜日(7月17日祝日は開館し、7月18日を休館)  
料 金/一般 730(650)円、大学生 510(460)円、高校生以下無料

※( )内は20名以上の団体割引料金  
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料  
※第3日曜日「家庭の日」(7月16日、8月20日)は、大学生以下無料  
※7月23日「親子の日」は高校生以下のお子様お一人につき保護者様2名まで、全員入館無料  
※日光市民は一般 300円、大学生 200円、高校生以下無料

主催/公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館/  
日光市/日光市教育委員会

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3 Tel.0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp/>



小杉末庵(放菴)《春陽會》1925年頃

# 小杉放菴と春陽会の画家たち

春陽会は、小杉放菴が中心となって1922(大正11)年に結成された、現在も続く洋画団体です。結成当初は、日本美術院洋画部を退会した小杉放菴・足立源一郎・倉田白羊・森田恒友・山本鼎らに梅原龍三郎を加えた創立会員と、木村荘八・中川一政ら草土社系の画家や、日本美術院研究所で学んでいた今関啓司・山崎省三などが客員として参加していました。

草創期の傾向としては、油絵の日本化といった東洋的洋画への志向があり、第1回展から「水墨・素描室」が設置され、水墨画や素描も油絵と並んで陳列されていたことが挙げられます。その後も挿絵室(1927年,第5回展)や版画室(1928年,第6回展)が設置されるなど、油絵だけに会員を縛ろうとしない、各人の個性を尊重する自由さが、他の美術団体と大きく異なる特徴でした。昭和戦前期には、野見山暁治や三岸節子など、戦後美術を牽引していくことになる画家が数回とはいえ入選していたことも、清新な作品を積極的に迎え入れていた例として改めて注目すべき点でしょう。

本展は、1923(大正12)年の第1回展開催から本年が100年となることを記念し、日光市所蔵の小杉放菴を始めとする春陽会ゆかりの画家たちの作品により、その活動を振り返るものです。



今関啓司《断崖と海》1941年 第19回春陽会展 当館蔵



入江観《湖畔陽暎》2004年 第81回春陽会展 当館蔵



今関啓司《牛爪》1943年頃 当館蔵



山崎省三《第五回春陽会展覧会ポスター》1927年 当館蔵



森田恒友《緑野》1920年代 当館蔵



木村荘八《歌妓支度》1930年 第8回春陽会展 当館蔵

## 担当学芸員によるギャラリー・トーク (予約不要・要入館料)

2023年7月8日[土]、8月27日[日]

各時間＝午前11時より(1時間程度)

参加方法：入館券をお求めのうえ、お時間までにお集まりください。

## 次回予告

### 新たな時代のエトランゼ

ーパリへ渡った日本人画家たち 1950-70sー

2023年9月16日[土]～11月19日[日]



小杉放菴《保呂保呂鳥》1936年 第14回春陽会展 当館蔵



### ●会場・交通案内

- ◎電車＝東武日光駅、JR日光駅から東武バス「世界遺産めぐりバス」もしくは奥細尾、清滝、中禅寺温泉、湯元温泉方面行バス5分。「神橋」停留所より徒歩3分。
- ◎車＝日光宇都宮道路・日光インターから約2km
- ◎駐車場＝併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。